令和５年度　第１回 FD 研修会

2040 年以降の社会に求められる
「主体的な学び」を実現する授業創り

日時；令和 5 年 10 月 3 日（火）　14：00～16: 50

場所；日本ウェルネススポーツ大学東京サテライトキャンパス

1 号館 304・201・203 教室

主催　日本ウェルネススポーツ大学　FD 委員会

目　次

プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

ミニレクチャー１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
「「主体的な学び」を実現する授業づくり」　大津一義 FD 委員長

ミニレクチャー２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
「令和４年度 FD 研修会終了後のアンケート調査結果―今後の FD で取り上げて欲しい課題（回答者数 36 人）―」題」　薗部正人 FD 委員

ミニレクチャー３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
「授業実践において心がけてきた主体性を培う上での要点―経営者と授業実施者の立場からー」　柴岡信一郎　副理事長

実践授業（紹介方式）・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
「生徒が主体的に授業に取り組むためにーペーパーレス対応含む授業展開と課題―」　千葉智久（日本ウェルネススポーツ大学東京）

参加者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

プログラム

統一テーマー：「教職員力・授業力の向上」
テーマ; 2040 以降の社会に求められる「主体的な学び」を実現する授業創り
期　日;　2023 年 10 月 3 日(火)、14:00～16:55
場　所;　日本ウェルネススポーツ大学東京サテライトキャンパス
成増 1 号館 3 階 304 教室, 201 教室, 203 教室
＊zoom 参加者の URL ;
https://us06web.zoom.us/j/6866155133?pwd=ci9JK2JRMkpsRzRlSmdPdWM1K3Nadz09

＊教授会終了が早まった場合は、全体に１５分程度前倒しで開始します。待機を想定して参加をお願いします。
＊注意事項;　今回の研修会はペーパーレスで進めますので、事前に教職員に配信された第 1 回 FD 研修会の本冊子（PDF ファイル)、アンケート調査（Google フォーム）をダウンロードした PC、タブレット、スマートフォンのいずれかを手元にご用意ください。

＊アンケートの URL (回答締め切り 10 月 10 日) ; https://forms.gle/MUz5JcQQGCgzLfGa9

総合司会 大津一義 FD 委員長

14:00～14:05 開会挨拶 柴岡 三千夫 理事長・学長
*以下、随時、アンケート調査に記入
14:05～14:25 ミニレクチャー1　(20 分間)
「「主体的な学び」を実現する授業づくり」　大津 一義 FD 委員長
14:25～14:35 ミニレクチャー２　(10 分間)
「令和 4 年度 FD 終了後のアンケート調査結果」 薗部 正人 FD 委員
14:35～15:00　ミニレクチャー３　(２５分間)
「授業実践において心がけてきた主体性を培う上での要点―経営者と授業実施者の立場から―」　柴岡信一郎 副理事長
15:00～15:05 休憩
15:05～15:30　実践授業(紹介方式)　(２５分間)
「生徒が主体的に授業に取り組むためにーペーパーレス対応含む授業展開と課題―」　千葉智久氏（日本ウェルネススポーツ大学東京）
15:30～15:35 移動・休憩
15:35～16:10　グループディスカッション　(35 分間)
*論点；「主体的な学び」を実現する授業づくりの要件について
A グループ(304 教室) ファシリテーター ： 近藤　卓 FD 委員、書記
B グループ(201 教室) ファシリテーター ： 橋本純一 FD 委員、書記
C グループ(203 教室) ファシリテーター ： 横山典子 FD 委員、書記
*書記はグループ内から選出
16:10～16:15 移動・休憩
16:15～16:50 全体ディスカッション　(304 教室、35 分間)
論点； 3 グループの論点のまとめと共通要件について
ファシリテーター: 鈴木勝彦、　書記: 3 グループの各書記
16:50～16:55 閉会の辞 武井克時　学部長
*随時、アンケート調査に記入した結果を、上原章夫 FD 委員に提出

ミニレクチャー１

「主体的な学び」を実現する授業創り

大津一義　FD 委員会委員長

FD,SD 研修は大学設置基準において、大学に義務づけられていますその実施に当たっては、かく大学の独自性が求められていることから、本学においては、FD 研修会の対象を大学の教員のみならず職員とし、しかも、専門学校、高等学校との接続連携を密にして、タイケン学園の全教職員の資質能力の向上を目指した研修を実施しています。これまでは、「教職員力・授業力の向上」の統一テーマのもと、その時代のニーズを分析し、それに応じた主テーマを設定してきました。

1．昨年の令和4度は、「新しい時代(Society5.0)に求められる資質・能力と学修法」について研修しました。

1）Society5.0)に求められる資質・能力については、2012 年の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」でのアクティブラーニング（教育による一方的な講義形式的な教育と異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称）の提言や 2013 年の「第2期教育振興基本計画」の「学生の主体的な学びの確立による大学教育の質的転換（アクティブラーニング，教員サポート等）」での自立、協働、創造の3つの理念の実現、2018 年の第3期教育振興基本計画（2018―2022 年）での「自立した人間として、主体的に判断して、多様な人々と共同しながら新たな価値を想像する人材の育成」が目標として掲げられた。2022年の経済連の「新しい時代に対応した大学教育改革の推進-主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて-」では,主体的な学修を通じてイノベーションを起こせる人材や新たな 価値を創造できる人材、グローバル・リーダーとなりうる人材を多く輩出することが求められており、とりわけ、大学の役割として、地域や日本、世界に貢献することが急務であると力説していることに言及しました。また、2017 年の小・中学の学習指導要領の改訂にも言及し、アクティブラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」が強調されたと言及しました。

2）終了後にアンケート調査を行ったところ、「今後取り上げて欲しい課題」について聞いたところ、詳細は薗部 FD 委員より説明して頂きますが、受講者の受講態度（主体性がない、授業妨害、授業を聞かない、騒ぐなど）への対応、受講生を引きつけるコツ、主体性を引き出すためのオンラインと対面での具体的工夫、ICT 機材の具体的使用方法、キャリア教育、アクティブラーニング、昨年のテーマの継続などがあげられました。

2．「主体的な学び」を実現する授業創り（開発・展開）

これらは新しい時代(Society5.0)に求められる資質としての主体性に関わっており、それを培うには「主体的な学び」を実現する授業を開発し展開する必要があります。

1）国の教育政策

(1)直近では[令和5年 3 月の中央教育審議会の**「次期教育計画進行基本計画について」**の答申]においても提言されています。その「次期計画のコンセプト」として、

① 「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」
「Society5.0 で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成」が強調されています。

② 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」
「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方」や「幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む」ことが強調されています。

ウェルビーイングについては、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」と定義されています。

下線の「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」は世界保健機関(WHO)憲章の健康の定義に相応しており、医療や社会福祉の分野で多く用いられてきましたが、日本企業をふくめビジネスの現場にも取り入れられ、経済的な指標である GDP に代わる、新たな「社会的な幸福を測る指標」としても注目され、「生きがい」ないし QOL や将来にわたる持続的な幸福を含む概念概念として解されるようになり、個人の社会的な生活はもちろん、教育現場や企業でも増えてきています。

このようにウェルビーイングが QOL や将来にわたる持続的な幸福を含む概念として注目されるようになった背景には、グローバル化による多種多様な人　同士のコミュニケーション、少子高齢化による労働人材不足への対策、SDGs における「すべての人に健康と福祉を」の項目達成、リモート環境をはじめとしたコミュニケーション不足によるストレスへのフォローが求められるようになったことなどが挙げられます。

このようなウェルビーイングの達成度や実現度を測るためには、いろいろな指標を目安とすることが重要です。国際連合(国連)による**「世界幸福度ランキング」**も指標の1つですが代表的なのは次の4つです。

・Social well-being**(ソーシャル　ウェルビーイング)**
人間関係に関する幸福度です。家族、友人、職場の同僚、上司など自分を取り巻く人々と、信頼関係や愛情のある深い関係を結べているか、広い交友関係があるかなどが指標となります。

・Financial well-being**(フィナンシャル　ウェルビーイング)**
経済的な幸福度です。安定した収入を得ているか、資産を確保しているかなどの要素が含まれます。

・Physical well-being（フィジカル ウェルビーイング）―心身に関する幸福度です。身体は健康か、仕事にやりがいはあるか、前向きな気持ちで日々を過ごしているかなどが指標となります。

・Community well-being（コミュニティ ウェルビーイング）―地域社会での幸福度です。家族、友人、学校、会社、部署など自分が属しているコミュニティとの幸せが測られます。

（2） 現行学習指導要領における小中高での「対話的な学び」の意義と実施

小・中・高校では現行学習指導要領の改訂（小中は 2016 年、高は 2017 年改訂）の目玉であるアクティブラーニングの視点からの授業改善が進行中です。

アクティブラーニングは学習過程の「質的改善」を狙った取り組みであり、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の学習過程が密接に関わりながら展開されます。

この中で、「主体的な学び」の重要性について、変化の多い今後の社会の中で、目的意識をもって、他者と協力しながら課題を解決していく能力を育成することが必要であるとされています。

「主体的な学び」とは、学ぶことに意義を感じ、自ら取り組むことです。学習者（学修者）の主体性を育むには、手取り足取り教えるのではなく、こどもの自主性に任せ、こども自らが行動するようにしなければなりません。

文部科学省では、「主体的な学び」は次のように定義ざれています。

「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び」。

（文部科学省資料「新しい学習指導要領の考え方―中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ―」*p22）*

従って、「主体的な学び」の授業を展開するには次の要件を踏むことが大切です。

①興味・関心を持たせる

②見通しを持たせる

③まとめをする

④振り返りをする

⑤次につなげる

「主体的な学び」への実現が促されたのは現行版で初めて「前文」が新設され、「これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓ひらき，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とされ、下線のように SDGs への取り組みが強調されたからです。

（3）高等教育における「学修者本位の教育の実現」

高等教育に対しても、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(2018. 11 .26 中央教育審議会答申)」において、2040 年という将来を見据えた我が国の高等教育が目指すべき姿として、高等教育機関がその多様なミッションに基づき、

学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくことが掲げられ、「学修者本位の教育の実現」が謳われている。そのための改革方策として、2040 年には 18 歳人口が 88 万人に減少し、大学進学者数が約 51 万人になるという推計を踏まえて、社会人及び留学生の受入れ拡大、地域の高等教育機関、産業界、地方公共団体とが恒常的に対話・連携を行う場の構築、各地域の高等教育機関の強みや特色を活かした連携・統合の促進等が提言された。しかし、これらの改革はいずれも緒に就いたばかりであり、 検討課題として、次の3つ（ポリシー）について審議が進めてられている。

①主専攻・副専攻制の活用等を含む文理横断・文理融合教育の推進（主としてカリキュラムポリシーとしての教育課程の編成・実施の方針）

②「出口における質保証」の充実・強化 （ディプロマポリシーとしての卒業認定・単位授与の方針、

③ 学生保護の仕組みの整備（アドミッションポリシーとしての入学者受け入れの方針）

以上のように、学校教育に対し、「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」への社会的要請が増大しており、中でも主体的に課題解決できる人材の育成が強調されていますので、今回の FD の主テーマを「主体的な学び」を目指す授業創り」としました。

その「授業創り」に当たっては、授業の内的成立要件である目的・目標、内容・教材、方法、評価が反映する学習指導過程を、QOL ないしウェルビーイングやアクティブラーニングの視点から見直し改善していく必要があります。例えば、授業の目標の設定に当たっては、短期でなく長期の生きがい（自己実現、夢など）と関わらせるとか、学習指導過程や授業の流れについてはアクティブラーニングの視点から、学習過程の「質的改善」を狙った取り組みである「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を相互に関連づけるなどです。

加えて、これらの内的要件を円滑かつ効率的に推進していくには授業の外的要件である人、もの、金、情報などの教育環境要件を整備しマネジメントしていく必要があります。この点、大学では、前述した「グランドデザイン」で指摘されている大学進学者数の大幅な減少への対応は大きな経営上の課題になっています。学修者本位の授業創りを目指すには、その前提として、受講生の減少への対応が不可欠であり、この経営面と実際の授業実践面からの見直し改善が必要ですので、柴岡信一郎先生にミニレクチャーを懇願したところ、快諾を頂きました。以前から大学の経営者側の意向をお聞きしたかったからです。また、授業実践者でもあり、学生から高い評価を受けており、その背景理由もお話し頂きたかったからです。

このミニレクチャーを受けて、実際の授業づくりの実現を目指している千葉智久氏に「運動生理学」を中心に他の担当科目を含めて、本学の経営・運営方針であるペーパーレスへの対応を含めた授業創りを紹介方式で提供して頂きます。

続いて、3グループに別れ、「主体的な学び」を目指す授業づくり」のためにはどのような視点からの工夫、改善が必要なのかにって討論をし、その結果を全体討論会で発

表し、教職員として習得すべき資質能力について、具体的に研修していただければ幸いです

全教職員の積極的な取り組みをお願いいたします。

主体的・対話的で深い学びの実現
（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【例】
- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

学びを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力・人間性**等の涵養

生きて働く **知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる **思考力・判断力・表現力**等の育成

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【例】
- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【例】
- 事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

次期教育振興基本計画について（答申）【概要】

令和５年３月８日　中央教育審議会

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

【社会の現状や変化】
・新型コロナウイルス感染症の拡大　・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化　・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）　・少子化・人口減少や高齢化
・グローバル化・地球規模課題　・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）　・共生社会・社会的包摂　・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）　・18歳成年・こども基本法　等

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）
► 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す**羅針盤**となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み

第3期計画期間中の成果
・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化　等

第3期計画期間中の課題
・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞　・不登校・いじめ重大事態等の増加
・学校の長時間勤務や教師不足　・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷　・博士課程進学率の低さ　等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
・**将来の予測が困難な時代**において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
・**社会課題の解決**を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上等**による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
・**Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上
・**多様な個人**それぞれが**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会**が**幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
・幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
・**日本発の調和と協調**（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
・**主体的に社会の形成に参画**、持続的社会の発展に寄与
・**「主体的・対話的で深い学び」**の視点からの授業改善、大学教育の**質保証**
・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
・[illegible]大学等国際化、外[illegible]るESD等を推進
・**リカレント教育**を通じた高度人材育[illegible]

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による**多様な教育ニーズへの対応**
・支援を必要とする子供の**長所・強みに着目**する視点の重視、**地域社会の国際化**への対応、**多様性、公平・公正、包摂性**（DE&I）ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
・**ICT等の活用**による学び・交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に**複線化する生涯**にわたって**学び続ける**学習者

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
・**持続的な地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等**の社会教育施設の機能強化や**社会教育人材**の養成と活躍機会の拡充
・**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
・**生涯学習**を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、**当事者**として**地域社会の担い手**となる

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- **DXに至る３段階**（電子化→最適化→新たな価値(DX)）において、第３段階を見据えた、**第１段階から第２段階への移行**の着実な推進
- **GIGAスクール構想**、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進
- 教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、**教育データの分析・利活用**の推進
- デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

計画の実効性確保のための基盤整備・対話
- **指導体制・ICT環境**等の整備、**学校における働き方改革の更なる推進**、経済的・地理的状況によらない学びの確保
- **NPO・企業等多様な担い手**との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保
- **各関係団体・関係者（子供を含む）との対話**を通じた計画の策定等

ミニレクチャー２

令和４年度 FD 研修会終了後のアンケート調査結果

―今後の FD で取り上げて欲しい課題（回答者数 36 人）―

薗部正人　FD 委員

大学の授業について	
受講態度への指(７)	授業妨害、授業を聞かない・騒ぐ学生の指導方法、主体性のない学生の心理的・教育的アプローチ、学習意欲のない学生の対応
	能動的な受講姿勢の醸成方法、学習へ集中して取り組む意欲を高める有効な方法、生徒を引きつけるコツ
指導法(1)	本学生への指導法
教育内容(２)	カリキュラムマップ、本学生への教科内容、キャリア教育
学習過程(３)	引き続きアクティブラーニングについて、アクティブランニングの充実をさらに期待、指導案の作成、授業の構成（流れ）
媒体(2)	ICT 機材の具体的使用方法について
	教育に使える新たな媒体やツールなどの紹介
特別支援(2)	不登校生支援、発達障害・アスペルガー・ADHD 等の学生への対応
授業全般(2)	学生が興味を抱く授業を取り上げて欲しい
	主体的学習の主体性をどのように引き出すかについて、オンラインと対面での具体的工夫
タイケン学園グループに対する意見	
(1)	内部進学率のあげ方、
(1)	各学校の学校紹介の工夫点等を聞きたい
(２)	グループ内の各部署の相互理解、内部進学の情報共有とテクニック
その他	
研修会継続 (４)	今回のような研修会は各専門学校の講師向けにも行ったほうが良い、今回のような新しい授業展開を取り上げて欲しい、今回のテーマの続き、継続的な研修
	実際にオンライン授業を行い、問題意識を持ちたい
	教職員のカウンセリングマインドの育成
	産業界からみた大学教育（講師を招いて講演）
	様々な授業の授業参観
未定　(4)	今は思いつかない、特にない、随時提案,検討中
未記入　(3)	

ミニレクチャー３

授業実践において心がけてきた主体性を培う上での要点
―経営者と実践授業実施者の立場から―

柴岡信一郎

１．我々の業界のマーケット

２０５→１１０→７７→（３７）

上記４つの数値は、平成初頭の１８歳人口、２０２３年の１８歳人口、２０２２年の出生数、２０２３年上半期の出生数、

２．教職員に求めるもの

（１）授業は私学運営のど真ん中

（２）ノウハウは共有、人員は連携・連帯・仲良く

（３）不満はなぜか授業と寮に向かうので「満足度の高い授業」を

３．授業実践の例

（１）コミュニケーションの主体は常に相手（学生、生徒、園児、保護者…）

（２）教員は優しさ、許す心、ガマン、気遣い、心遣い、アンテナ張り

（３）上記１・２により主体的な教育が可能、自分事として考えるようになれば誰でもやる

（４）カッコウ付けない（威厳を出そうとしない、一緒にやる、恥かしがらない、～になる）

（５）迷いを見せない（でもまれに迷いを見せる）

（６）無理しない（９０分完結型、９０分ワンテーマ）

（７）「３割習得すればＯＫよ」（大事な内容は次回冒頭に復習、授業中に当該箇所を伝達）

（８）配分 出欠確認５分間、雑談５分間、復習５分間、本題６０分間、質疑応答１０分間

（９）冒頭に“目次”を提示（流れ、時間を事前に知れば心の準備ができスタミナがもつ）

（10）守ろう３原則　脱帽、飲み物机下、ケータイ不可（でも…）

（11）「起立、気を付け、礼、着席」の意義、メリットを知れば誰でもやる

（12)「好き嫌いはほどほどに、嫌いな教職員からも学びはあるよ」(仕事では好き嫌いできないのでその為の練習、嫌いな人への対応を具体的に演習トレ、人としての幅が広がる）

（13）質疑応答の練習　言葉の力の養成、雛形に合わせて、共有できる内容

（14）演習、グループワーク　ノリが悪い者を引き込む気遣い、拡散、無理やりまとめる

（15）受講生が１００人以上だった時

（16）受講生が一人だった時

（17）受講生同士で乱闘発生した時

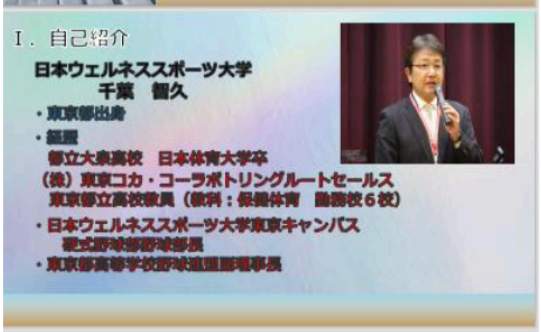
（18）空気感がイマイチのクラス

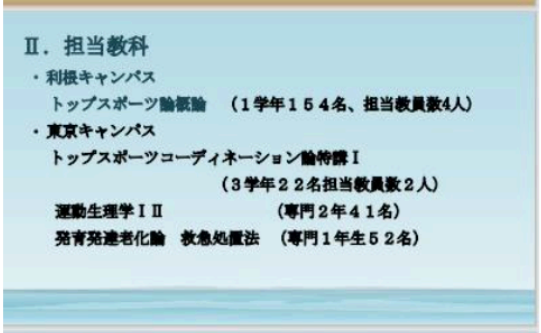
（19）マンネリ打破

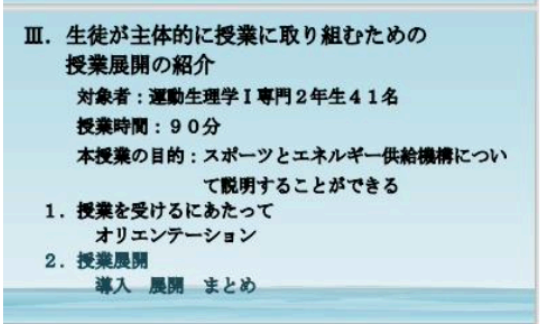
実践授業（紹介方式）

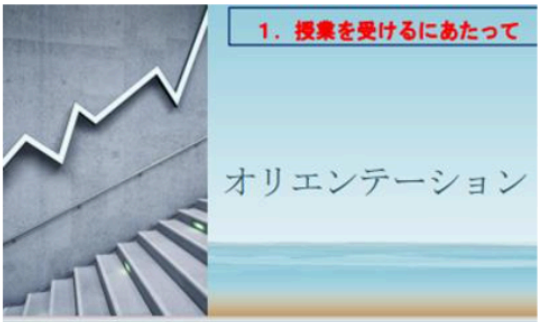
生徒が主体的に授業に取り組むために―ペーパーレス対応含む授業展開と課題―

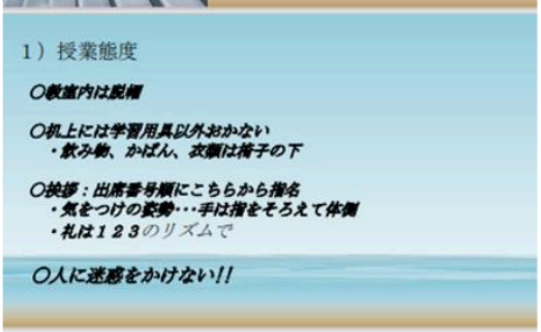
千葉智久（日本ウェルネススポーツ大学東京）

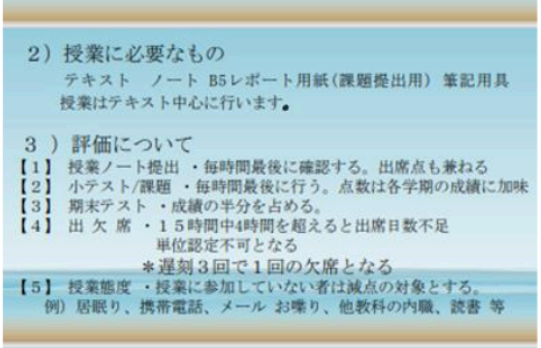


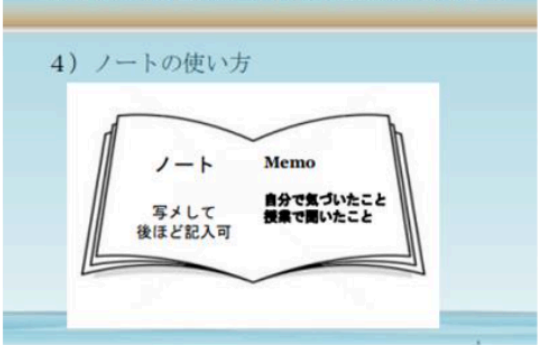


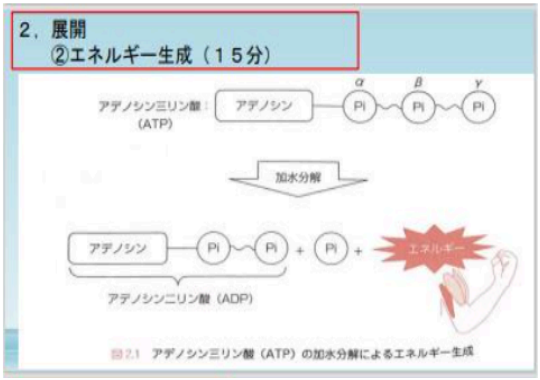












＊私のスポーツ学生に対する授業方針

- トップアスリートを育てることを目標
- 社会に出て困らないよう自立すること
- 人を作ること

1）導入
5分

スポーツ → 様々な運動様式
↓スポーツを実施
エネルギーが必要
↓ヒトのからだ　臨機応変に対応
化学的にエネルギーを供給する機構
効率的・効果的トレーニング計画
↓
よりよいスポーツ成績

2）展開
①筋収縮のエネルギー源（２０分）

1　筋収縮のエネルギー源

スポーツ，いわゆる身体運動は，骨格筋が収縮することによってもたらされる．その筋収縮のための唯一のエネルギー源がアデノシン三リン酸（adenosine triphosphate, ATP）である．図2.1のように，ATPはアデノシン分子に三つの無機リン酸（inorganic phosphate, Pi）が結合した高エネルギーリン酸化合物である．末端の二つのPi（β位およびγ位）が高エネルギーリン酸結合で結び付いており，それらが高い化学エネルギーを蓄えていることになる．

2．展開
③栄養管理（２０分）

・運動時のエネルギー代謝について
・基本的にエネルギー源になる栄養素
糖質（炭水化物）、タンパク質、脂質
・糖質（炭水化物）
素早くエネルギーに変換できて最優先されて使われるエネルギー
・脂質のエネルギー
長時間かけて必要な時に使われるエネルギー
・運動時は大量のエネルギーを使用
運動やスポーツの種類、方法で、体内でのエネルギー代謝は異なる

2．展開
④自主研修学習時間（勉強TIME１５分）

勉強TIME（１５分）
本時間で学習したことテストするための事前学習時間

2．展開
⑤小テスト（１０分）

スポーツとエネルギー供給機構１小テスト
＊回答はGOOGLEフォームへ

問題
・エネルギー供給機構を３つあげ説明し、それぞれにおいて陸上競技の種目を答えよ。
（　①　）系…種目（　②　）
（　③　）系…種目（　④　）
（　⑤　）系…種目（　⑥　）

2．展開
⑥レポートの書き方

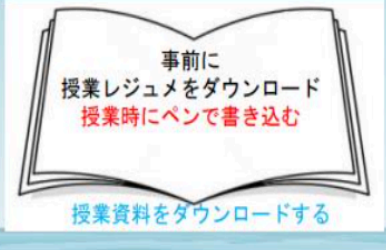
課題①3分間で疲労困憊に至る高強度運動と低強度運動を3分間継続させた場合の違いをまとめる（教科書P20）

5　トレーニングによるエネルギー供給能力の変化

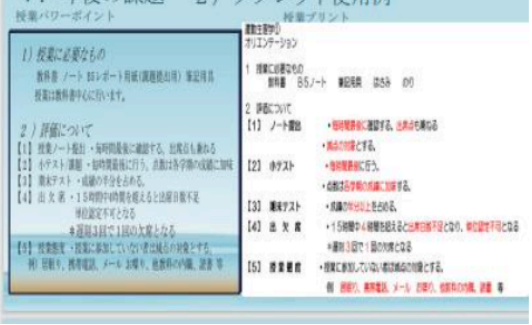
課題②エネルギー供給能力の視点からみた筋力、スプリント、持久性トレーニングの効果を述べよ
1）筋力トレーニング（教科書P21）
2）スプリントトレーニング（教科書P22）
3）持久性トレーニング（教科書P23）
POINT①目的　②効果　③特徴　の3観点についてまとめる

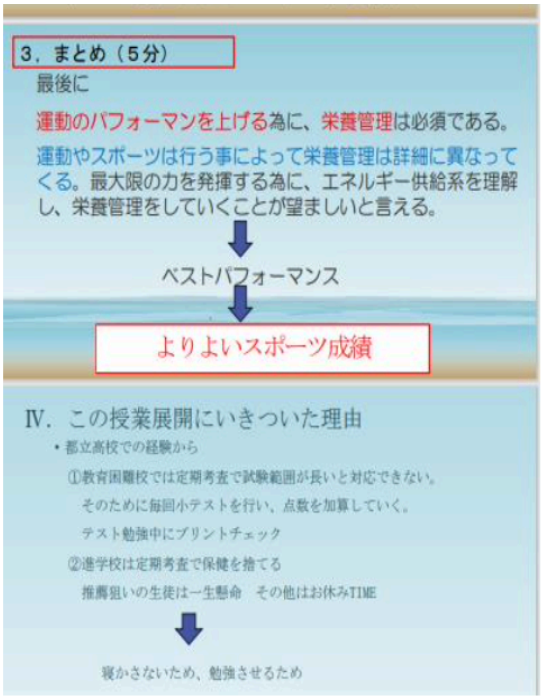
本日の提出はB5レポート用紙で

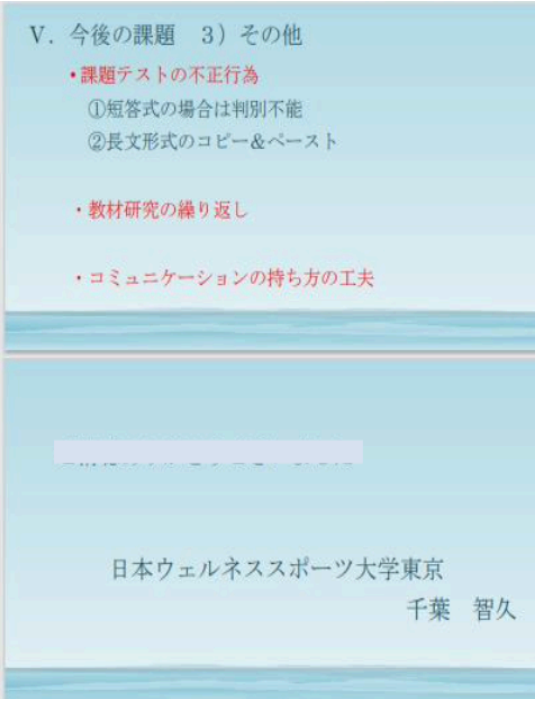
V．今後の課題　1）タブレットの使い方
・生徒に興味を持たせるためにどうすればよいか？



V．今後の課題　2）タブレット使用例




3．まとめ（5分）
最後に
運動のパフォーマンスを上げる為に、栄養管理は必須である。
運動やスポーツは行う事によって栄養管理は詳細に異なってくる。最大限の力を発揮する為に、エネルギー供給系を理解し、栄養管理をしていくことが望ましいと言える。
ベストパフォーマンス
よりよいスポーツ成績
Ⅳ．この授業展開にいきついた理由
・都立高校での経験から
①教育困難校では定期考査で試験範囲が長いと対応できない。
そのために毎回小テストを行い、点数を加算していく。
テスト勉強中にプリントチェック
②進学校は定期考査で保健を捨てる
推薦狙いの生徒は一生懸命　その他はお休みTIME
寝かさないため、勉強させるため


Ⅴ．今後の課題　3）その他
・課題テストの不正行為
①短答式の場合は判別不能
②長文形式のコピー&ペースト
・教材研究の繰り返し
・コミュニケーションの持ち方の工夫
日本ウェルネススポーツ大学東京
千葉　智久